



私たちの挑戦 3 人と組織のトランスフォーメーション

デジタル技術でプロセスを変え、多様性で発想の幅を広げることで人と組織に変革をもたらし、強い競争力を持って世の中に貢献し続ける“a digitally savvy company”を目指します。

DXを加速化させる推進体制

クラレグループは、DXビジョン「デジタルを経営に取り込み、高い競争力を持って常に進化し、世の中に貢献する」のもと、「カスタマーエクスペリエンス(顧客体験)の改革」「業務プロセスの改革」「ビジネスモデルの改革」「研究開発・生産技術シミュレーション」の4つの重点分野を設定し、中期経営計画「PASSION 2026」の中核戦略の一つとして全社的にDXを推進しています。ビジョンの実現には、「ヒト・データ・プロセス・システム」の4点を統合させながら、DXを迅速に推進する総合力が求められます。例えば、サイバーセキュリティの高度化には、優れたセキュリティシステムの導入に加え、ヒトのデジタルリテラシーの向上、重要データの適正な管理・把握、セキュリティ管理プロセスをグローバルレベルで整備することなどが必要となります。

2023年1月から、DX機能とIT機能を統合し、DX-IT本部としています。DX関連の施策を一体組織となって迅速かつ効率的に推進することで、“a digitally savvy company”を目指しています。

「PASSION 2026」の重点分野と進捗

> P.45 > P.46

重点分野	これまでの進捗
カスタマーエクスペリエンス(顧客体験)の改革	- CRM ^{*1} 上で顧客データの分析・解析を進めるとともに、部門横断的なデータ共有を強化し、グループ総合力の向上に寄与
業務プロセスの改革	- EA ^{*2} フレームワークを活用し全体最適の観点から改善施策を検討 - グローバルSAPシステム(SAP S/4HANA)の展開を拡大
ビジネスモデルの改革	- ユーザーに新たな価値を提供するコンセプトをデザインし、一部の事業で具体的なシステムの構築に着手
研究開発・生産技術シミュレーション	- R&Dナレッジを一元管理するプラットフォームの構築・運用を開始 - ハッカソン ^{*3} 大会の開催

*1 Customer Relationship Managementの略。顧客情報の管理システム

*2 Enterprise Architectureの略。企業の業務やシステムの全体像を可視化し、全体最適の観点から効率的な運営を実現するためのフレームワーク

*3 大学生などのチームが短時間で技術課題の解決策を提案する賞金付き技術コンペティション

組織体制



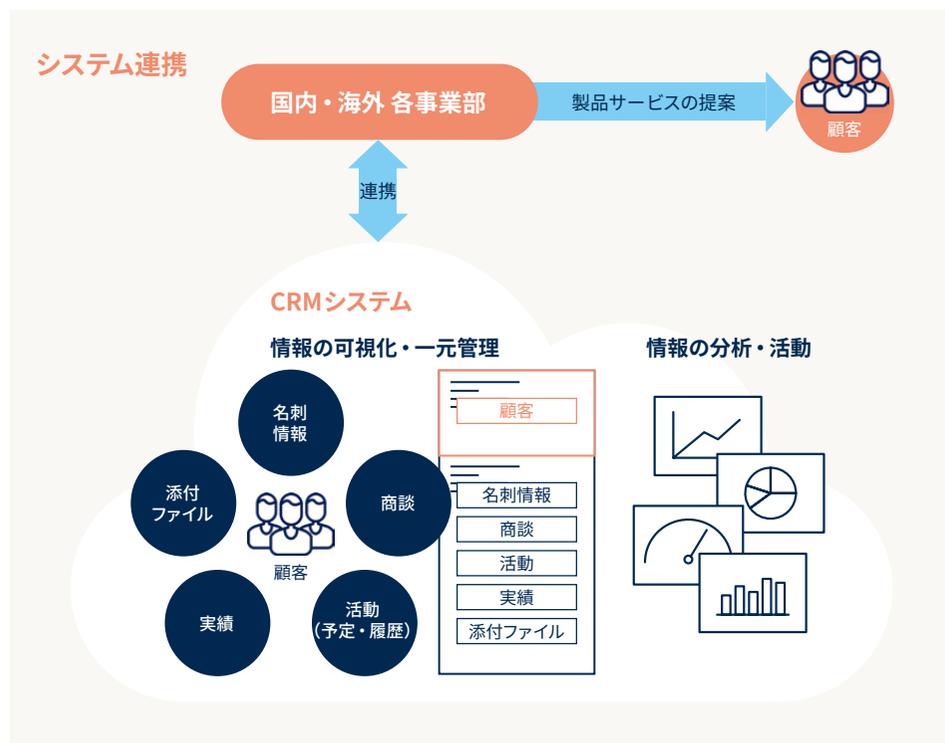
クラレグループが目指すDXの在り方



カスタマーエクスペリエンス(顧客体験)の改革

クラレグループは、カスタマーエクスペリエンス(顧客体験)の重要性を深く認識しています。当社は、CRM^{※1}システムを活用してお客さま情報を一元管理し、データ分析を通じて業務の効率化を図っています。これにより、当社との取り引きを通じてお客さまにより良い体験を提供することを目指しています。

CRMシステム上では部門横断的なデータ共有が可能となり、各部門が連携してお客さまのニーズに迅速かつ的確に対応できるようになりました。このデータ共有は、イノベーションネットワークセンターが推進するグループ全体の総合力活用や、一貫性のある高品質な顧客対応を実現するための活動にも寄与しています。



※1 Customer Relationship Managementの略。顧客情報の管理システム

※2 Enterprise Architectureの略。企業の業務やシステムの全体像を可視化し、全体最適の観点から効率的な運営を実現するためのフレームワーク

※3 Enterprise Resource Planningの略。企業の経営資源を一元管理し、企業全体の最適化を実現するためのシステム

業務プロセスの改革

組織全体のパフォーマンス向上を目指し、デジタル技術を活用した業務プロセスの改革を進めています。具体的には、現場でのボトムアップ型の改善活動に加えて、EA^{※2}のフレームワークを活用しながら全体最適の観点を取り入れ、アプリケーション・業務プロセス・データの各層の可視化と改善に取り組んできました。特にアプリケーション層では、活動を本格化した2022年以降、国内外のIT部門が連携してグローバルな最適化活動をリードしています。

また、グローバルSAPシステム(SAP S/4HANA)の展開と、それに伴う業務プロセスの整理・統合にも引き続き注力しています。ビニルアセテート関連事業、イソプレン関連事業に続き、2024年からは、環境ソリューション事業でもERP^{※3}の統合と業務プロセスの見直しを進めるためカルゴン・カーボン社への導入を開始しています。これにより、持続的な成長に向けた基盤をさらに強化します。

今後も事業・間接部門と連携しながら、EAによる全体最適化と、顧客のニーズや現場の発想を基本とするクラレグループの強みを最大限に生かした業務プロセスの改革に取り組んでいきます。

ビジネスモデルの改革

サービスにデジタル技術を組み合わせ新しい価値を生み出す仕組みづくりを積極的に進めています。独創性の高い製品を強みとするクラレグループは、プロダクトアウト型のビジネスモデルを採用する傾向がありました。そのため、ひとたび社会ニーズが下火になると製品の適応力が損なわれるという課題もありました。また近年、「モノ」から「コト」へと消費行動の変化が一層進んでいます。

このような背景から、クラレグループでは、ユーザーへ新たな価値を提供するコンセプトデザインを開始し、2024年にはIoTを活用した具体的なシステムの構築に着手しています。引き続き、既存事業のビジネスモデルにインタラクティブなデジタルサービスという価値を付加し、新たなビジネスモデル構築を目指します。

研究開発・生産技術シミュレーション

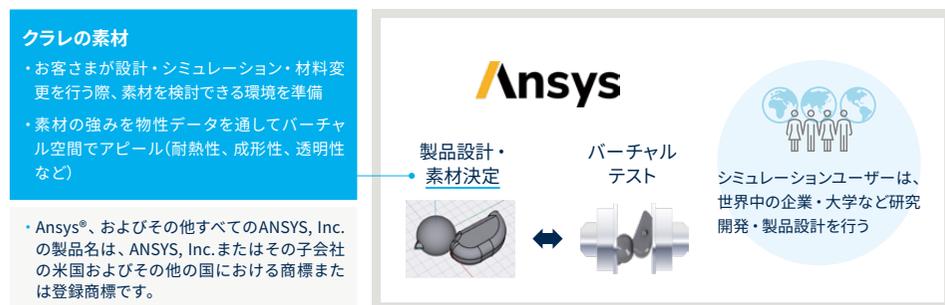
(1) 製品のデジタルプレゼンスの向上

デジタル技術の発展に伴い、ビジネス環境は急速にオンライン化しています。クラレグループは、シミュレーションおよび解析ツールの開発・販売で世界をリードするAnsys社と協業し、お客さまがデジタル空間上でクラレ製品を用いて効率的に製品開発できる環境を整備しています。製品の物性データをAnsys社のデータベースに掲載することで、設計・シミュレーション・材料変更の検討を容易化し、開発期間の短縮やコスト削減に寄与します。

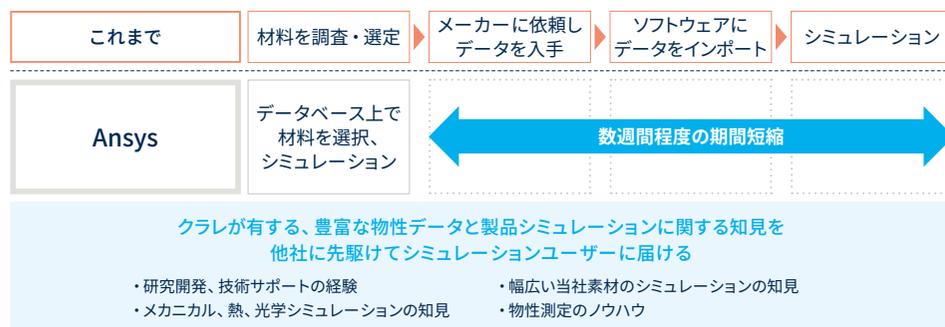
また、世界中の企業がシミュレーションソフトウェアを活用した製品開発に取り組んでいるため、ブランド認知の向上、顧客接点の創出、グローバルニーズ情報に基づいた研究開発、競合他社との差別化などが期待できます。

今後も、クラレグループは豊富な物性データと製品シミュレーションに関する知見を他社に先駆けてお客さまに届けることで、製品のデジタルプレゼンスの向上を図っていきます。

シミュレーションソフトウェア会社 Ansys社と協業



お客さまがクラレ独自の素材を気軽にテストできる環境を提供



担当者メッセージ

デジタル空間上でクラレの存在感を高め、新しい価値創出のきっかけづくりを

DX-IT本部 GDx推進部
アナリティクスグループ グループリーダー
研究開発本部 デジタルソリューション部 主管

大田 佳実



クラレグループの大きな強みは、長年の研究開発で蓄積された材料の物性に関する知見です。この知見を生かし、シミュレーションソフトウェア会社であるAnsys社と協業して、材料の物性データをお客さまに届ける体制を整えています。

構造解析などのシミュレーションは、自動車、航空宇宙、電気・電子、医療機器など幅広い産業分野で多く使われています。これらの分野では、多様な部品の複雑な性能が求められるため、シミュレーションの活用により、開発コストや時間の大幅な削減が期待できます。実際に、耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>では、シミュレーションをきっかけに製品の特長をご理解いただき、お客さまとのコラボレーションを創出しています。

さらに、クラレの製品の物性データをAnsys社のデータベースに掲載することは、従来接点のなかった業界の研究開発・製品設計者にも、当社製品を知っていただく絶好の機会となります。近年、軽量化ニーズが一層高まっており、材料データベースは使用材料の検討において重要な役割を果たしています。今後もこれらの活動を通じて、世の中に貢献する新しい価値創出のきっかけをつくりたいと考えています。

本プロジェクトは、これまでGDx推進部を中心に進めてきましたが、2025年1月に研究開発本部に新設されたデジタルソリューション部とも連携を深めています。クラレグループの研究開発にシミュレーションを一層活用していくことによって材料の知見やデータを拡充し、より役に立つデータをお客さまに提供していきます。

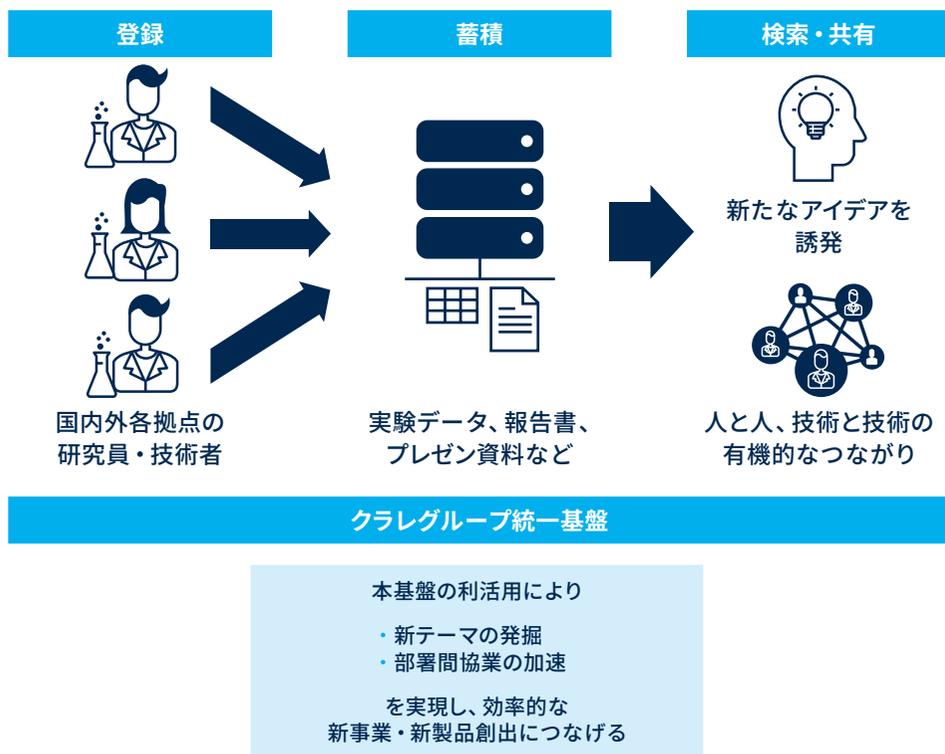
また、社内外の動向を俯瞰し、顧客課題や研究開発テーマをデジタル空間で解決できる知見を持つ人材も不可欠です。DX人材育成のGold class人材や事業部、生産シミュレーションを行う技術本部のメンバーなど、部署を超えた交流を積極的に行いながら、「世のため、人のために」邁進したいと思います。

(2) R&Dナレッジ管理基盤

2023年から構築を開始したR&Dナレッジを一元管理するプラットフォーム(ナレッジ管理基盤)を、2025年から海外を含むクラレグループ全体で運用開始しました。社内に蓄積された研究開発データを最大限に活用することにより、新テーマの発掘や部署間協業を加速し、新事業・新製品の創出を目指します。

また、プラットフォームの運用と並行し、利用者への啓蒙活動を通じて、本基盤へのナレッジ格納定着と格納されるナレッジ・データの質的向上を目指します。将来的には、会社の資産であるデータから継続的に価値を創出することができる文化の醸成につなげていきます。

R&Dナレッジ管理基盤



DX人材の育成

クラレグループは、全社員がデジタルの進化に後れをとらないように学び続ける風土、環境をつくり上げることが重要であると考えており、2023年にDX人材育成プログラムをグローバル施策として開始しました。Gold、Silver、Bronzeの3段階のデジタルリテラシーレベルを設けて、それぞれに対応した育成カリキュラムを整備しています。全社員が少なくともBronze classを習得する教育体系としています。

Gold、Silverの各classについては、2023年から国内でプログラムを開始し、2024年からは欧米でも同様のプログラムを開始しました。グループ全体で、各部門に少なくとも1人ずつ、DXをリードする人材を育成・配置し、その知識を部門全体へ、最終的には会社の隅々にまで広げていきます。

DX人材育成プログラム



カリキュラム

Class	Curriculum
Gold	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニング研修 (約20時間) ・ワークショップ研修 (約60時間) ・伴走支援型研修 (約60時間)
Silver	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニング研修 (約20時間) ・ワークショップ研修 (約20時間)
Bronze	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニング研修 (約6時間)

「PASSION 2026」期間中のDX人材育成実績と計画人数(国内)

クラス	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (計画)	2026年度 (計画)	2026年度までの 累計目標
Gold	44	38	45	45	約180
Silver	163	308	400	400	約1,200
Bronze	5,114	824	200	200	約5,700